山梨県中小企業団体中央会機関誌　平成25年度中小企業組合活性化情報　第三種郵便物認可　平成25年12月1日（日曜日）

中小企業タイムズ

12月号
2013年
第685/260号
（毎月1日発行）
定価100円
昭和36年4月10日
第三種郵便物認可
会員の購読料は賦課金の中に含まれます。

今月の見どころ

●受章・受賞おめでとうございました…… 2面
●学生が社長を取材…… 6面
●新春交流会・組合まつりのご案内 …… 8面

発行所　山梨県中小企業団体中央会　甲府市飯田2-2-1 中小企業会館4階　TEL 055（237）3215 FAX（237）3216
http://www.chuokai-yamanashi.or.jp　e-mail webmaster@chuokai-yamanashi.or.jp

11月の出来事

●時事
3日　プロ野球、楽天初の日本一
6日　食材偽表示 5百貨店で発覚
7日　若田光一さん、4度目の宇宙へ

●山梨県中央会ニュース
8日　組合青年部全国講習会
11日　組合まつり第2回実行委員会
12日　組合青年部県大会
25日　消費税転嫁対策セミナー
　　情報連絡員会議

12月の予定

1日　組合士認定試験
11日　消費税転嫁対策セミナー

第65回 中小企業団体全国大会開催される

10月24日（木）滋賀県立芸術劇場「びわ湖ホール」（滋賀県大津市）において『つながる絆、ひろがる未来 ～組合 絆 ルネサンス～』を合い言葉に、第65回中小企業団体全国大会が開催され、全国から中企業団体の代表者約2，200名が参加、本県からは37名の組合関係者が出席した。

本大会には多数の来賓を迎え、企業中央会会長から祝辞を頂き、政党代表として、うえの賢一郎自由民主党税制調査会幹事、富田茂之公明党団体渉外委員長からあいさつがあった。

中小企業団体全国大会は、全国の中小企業及び中小企業組合が直面している重要課題を乗り越えるための自らの決意を明らかにし内外に表明するとともに、必要な事項について国等に建議・陳情を行うために開催されるもので本年度は、「実感ある景気回復と経済成長の実現」並びに「中小企業の活力強化」を具体化するための中小企業対策の拡充に関する15項目について満場の賛同を得て決議案は採択された。

また、決議案に関連して、蝦名文昭青森県中央会会長から「中小企業が一日も早く景気回復を実感し、先行きの見通しが立てられるような環境づくりを求める」とした意見発表が行われ、満場の賛同を得て採択された。さらに、本大会の意義を内外に表明するため、杉浦寛之滋賀県中小企業青年中央会会長が「組合の団結力をさらに強化し持てる力を組織に結集して、活力溢れる日本となるよう全力を尽くすことを誓う」とした『大会宣言』を行い、満場の賛同を得て採択された。

表彰関係では、全国から34の優良組合、69名の組合功労者、43名の中央会優秀専従者が全国中央会会長から表彰された。本県からは優良組合として山梨県ワイン酒造協同組合（大村春夫理事長）、組合功労者として都留信用組合の細田幸次理事長がそれぞれその功績を称えられ、受賞の栄に浴した。

なお、次回の第66回中小企業団体全国大会は、来年10月23日（木）に東京都において開催されることが発表された。

表彰された山梨県ワイン酒造協（大村春夫理事長）（左から2人目）、都留信用組合細田幸次理事長（右）」

本県からの参加者

平成25年度情報連絡員会議を開催

～業界を取り巻く経営状況等について情報交換～

業界の景況について情報を交わす会場内

中央会では、情報連絡員を集めて会議を11月25日甲府市「総合市民会館」で開催した。

この会議は、年1回開催し各業界の業況報告や今後の動向などについて情報交換を行っている。

平成25年度における四半期の景気動向並びにDI値の推移について事務局より説明を行った後、内藤会長が進行役となり各業界や組合の現状と景況などについて情報交換を行い、出席した各情報連絡員より各業種を取り巻く経営環境が報告された。

主な報告は次とおり

【食料品製造業】海外の市場開拓に注力している組合員が増えている。その結果、台湾向け菓子の輸出が昨年の2倍になっている。**【木材・木製品製造業】**消費税増税前の駆け込み需要が増している。今後、品不足が予測される。**【家具製造業】**来春3月までは、仕事がこなせないくらい受注増。受注先が大手ハウスメーカーのため、消費税増税後の価格の値下げ交渉が始まっている。**【電気機器】**メーカーが増収になっているため、一次、二次下請けにも仕事量が増加している。**【鉱業】**山梨県内の大型施設やリニア実験線の工事等も終わり春先からマイナス成長が予想される。**【宝飾・製造】**金やプラチナの地金の売買が登録制（200万以上の取引）になっているため、保有率が低下している。**【宝飾・卸】**原材料を輸入してるため、円安による材料コストが増加。しかし、価格転嫁がすぐにはできない。**【廃棄物処理業】**廃棄物業界は、各企業の景況が反映される。県内の景況は、改善傾向にあると感じる。**【建設業・専門工事業】**消費税増税前の駆け込み需要が増している。**【旅客運送業】**外国人の旅行スタイルが団体旅行から個人旅行へと変わりバスの利用増は期待できない。今後は、東京オリンピック関連や富士山（世界文化遺産）に期待したいが、売上を伸ばす前に「安全」をどこまで確保できるかが業界の課題になっている。

（関連：直近の10月の県内景況は3面に掲載）

消費税増税に向けた準備は万全ですか!?

消費税転嫁・増税に向けた講習会を開催!!

多くの組合関係者が参加

中央会は11月25日、甲府市総合市民会館大会議室において、来年4月の消費税増税に向けた消費税転嫁対策講習会を開催し、会員組合の理事長や経理担当者など約40名が出席した。

当会では、消費税率の二段階にわたる引上げや制度変更等で生じる課題や問題について、講習会の開催による周知や個別相談窓口の設置、専門家派遣による課題等の解決を図ることで、中小企業組合等が適正に消費税を転嫁できる環境を整備するため、消費税転嫁対策窓口相談等事業を実施している。

講師の初鹿氏

今回の講習会では、「消費税転嫁・増税に関する注意点について」をテーマに、初鹿会計事務所所長で税理士の初鹿武仁氏を講師に招き、10月に施行された消費税転嫁対策特別措置法のポイントや消費税率の経過措置などについて、具体例を交え分かりやすく説明がされた。12月11日にも同様の講習会を予定している。

また、組合や企業が抱える具体的な相談案件については、無料で専門家を派遣できるため積極的に活用していただき、適正な組合等の運営の一助にしていただきたい。

■専門家派遣申込み

TEL. 055-237-3215　連携支援観光課まで

栄誉

中央会関係者 秋の褒章に1人、県政功績者3人

11月3日秋の褒章、11月20日県政功績者に産業振興に尽力した功績が認められ、中央会関係者4名の方が栄えある受章・受賞を受けられました。

秋の褒章

有井　金三 氏
（山梨県中古自動車販売商工組合 理事長）

県政功績者

井上聰一郎 氏
（山梨県砂利協同組合 理事長）
（中央会 理事）

戸栗　敏 氏
（一般社団法人 山梨県木材協会 会長）
（中央会 理事）

笹本　森雄 氏
（山梨県旅館生活衛生同業組合 理事長）

農林水産業者との連携 ～六次産業化～

ibuki 息吹

六次産業化は、農業経済学者で東京大学名誉教授の今村奈良臣氏が1990年代なかばに提唱した概念で、農林水産物を収穫・漁獲（第一次産業）するだけでなく、加工（第二次産業）し流通・販売（第三次産業）まで主体的に手がけることで、農林水産業の経営体質強化を目ざす経営手法のことを言い、第一次産業の「1」に第二次産業の「2」と第三次産業の「3」を足して「6」になることから名づけた造語である。

当初、農林水産業者の六次産業化は、第二次・三次産業事業者で得ていた加工賃や流通マージンなどを農林水産業者自身が獲得し、付加価値を向上させるねらいであったが、これにより農林水産物のブランド化、地域特産品の開発、消費者への直販による販路開拓なども図られ、地域の新産業の創設や地域の活性化を図ろうとする動きに繋がった。

民主党政権下では、日本再生戦略の一環として六次産業化を推進するため2010年12月、六次産業化法（地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律）を公布し、農林水産省が六次産業化する事業を認定し、補助金や情報提供などで支援したことにより農業政策の柱として大きく育っている。

昨年の自民党政権に移行してからも六次産業化はアベノミクスの成長戦略の大きな柱に位置づけられ、守りから攻めの農業により海外展開をはかるための主要政策となっている。これらを進める中で企業とのネットワーク化（連携）をより推進し大規模な新産業の創出を図ることにより、来るTPPの対応策としても大きな期待が寄せられている。

県内の果樹農家を中心とした農業生産者も、数多く六次産業化に取り組みはじめておりTPP対策に向け企業との連携が求められている。

●山梨県中小企業団体中央会情報連絡員報告

本県10月の景況は、全業種のDI値が、売上高＋4（前年同月比＋22）、収益状況－14（前年同月比＋22）、景況感－10（前年同月比＋50）となっており、前年同月比は先月に引き続き全ての項目で大きな改善が見られた。業種別のDI値では製造業で、売上高－10（前年同月比＋20）、収益状況は－20（前年同月比＋25）、景況感－20（前年同月比＋70）。非製造業では、売上高＋13（前年同月比＋23）、収益状況－10（前年同月比＋20）、景況感－3（前年同月比＋37）となり、製造業・非製造業ともに前年同月比で改善した。

前月比では、製造業の売上高は10ポイント、収益状況が15ポイント、景況感は25ポイントと全ての項目で悪化し、非製造業では、収益状況は不変、売上高が7ポイント悪化したが景況感が4ポイント改善が見られた。

情報連絡員による県内の10月の業況報告は、2014年4月からの消費税率の引き上げによる駆け込み需要で建築・住宅関連の建材・家具、太陽光発電の設置工事等の関連業種の需要拡大が続き景気改善が広がっている報告が見られた。

製造業では、食品輸出を始め景気回復が広がっている報告があるが、原材料や燃料等のコスト増加分の転嫁難等により業種によっては景気改善に格差が見られた。

非製造業は、仕入価格の高騰による収益確保難の報告や消費税増税前の駆け込み需要による建設関係者の人手不足の報告が見られた。

消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響を懸念しつつも、県内の景気は緩やかに改善傾向にある。

▼データから見た

業界の動き

平成25年10月分

トピックス

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景、経費・資金繰りなどについてコメントを求めた。

業界から一言

■製造業

●食料品（水産物加工）／伊勢エビや鮑等の生鮮の取扱いは前年同月比145％と好調。全体の売上は、前年同月比118％。食材の偽造表示の問題からおせちに悪影響があると予測。

●食料品（洋菓子製造）／台湾向け輸出が好調で前年度の2倍。全体の売上は、前年同月比117％。

●食料品（菓子）／原材料や燃料、包装資材の値上げや今後さらなる値上がりを予測すると、価格転嫁ができない現状では利益確保が厳しい。

●繊維・同製品（アパレル）／業界の流通量は順調。

●木材・木製品製造／消費税増税前の駆け込みによるプレカット加工の仕事量が増加。しかし、昨年に比べ大型物件が少ないため売上高、収益は減少。

●家具製造／消費税増税前の駆け込み需要が続いている。

●印刷／景気回復の兆しは見えない。

●鉄鋼・金属／悪い状況に変わらないが、自動車関連は回復の兆しあり。

●一般機器／単価が安く、仕事が海外へ流出している。末端の製造業者は未だ悪い状況。

●電気機器／中小企業は相変わらず低迷の状況。

●その他（宝飾）／年末・クリスマス商戦に向けて、売上増加。

■非製造業

●卸売（紙製品）／古紙は、品不足により販売単価が上昇し売上は伸長したものの収益性は悪化。

●卸売（ジュエリー）／クリスマス商戦の時期だが、動きが鈍い。

●小売（青果）／野菜の入荷量の減少に伴い価格が高騰しており、消費不振。

●小売（食肉）／猛暑の影響で出荷減が続き価格が高値で推移しているが、価格転嫁ができないため収益状況が悪化。売上もディスカウンターに押され減少。

●小売（水産物）／台風の影響により各種イベントが中止となり大きな打撃を受けた。仕入商品の価格上昇が続き収益が悪化。

●小売（電機製品）／消費税増税前の前倒し需要や太陽光など高額商品を中心に既に活発化しつつある。

●商店街／秋の観光シーズンに入り来街者数は増加したが、売上には繋がらない。

●不動産取引／消費税増税により4月以降の新築物件の引き渡しや土地販売の需要が減少。

●宿泊業／景気回復感はない。消費税増税後の消費冷え込みを懸念。

●警備業／アベノミクス効果により仕事量は増加傾向にあるが、警備員が不足している。

●建設業（住宅関連）／消費税増税前の駆け込み受注の影響から仕事量が増加傾向。

●建設業（鉄構）／仕事量が余剰ぎみのため、利益のない低価格であった受注価格を、適正に戻す良い機会と考えている。

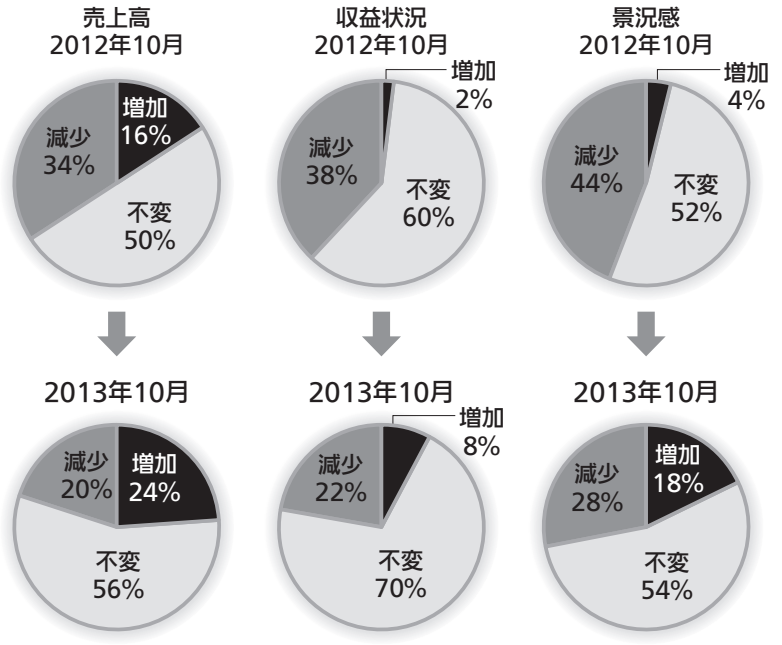
●設備工事（電気工事）／公共工事の発注が増加傾向にあるが人手不足の懸念が高まっている。また、消費税増税前の駆け込み需要も見られる。

●設備工事（管設備）／9月の山梨県の新設住宅着工戸数は、前年同月比215戸の大幅増となり、消費税増税を見込んだ駆け込み需要となった。

●運輸（バス）／法改正に対応して長距離運行時の1人増員による経費が増加。また、乗務員が減少傾向の中、運行できない車輌もあり収益は減少傾向。

●運輸（トラック）／燃料価格が高止まりしているため収益を圧迫。

データから見た業界の動き（平成25年10月分）



業界の声

●一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネージメント　理事長　**小林 昭治 氏**

八ヶ岳ツーリズムマネージメントというのはどのような組織ですか。

平成16年に、山梨県と長野県の八ヶ岳南麓の観光施設で働く支配人たちが、観光振興に連携して取り組むことを目的に「八ヶ岳南麓やとわれ支配人会」を結成しました。八ヶ岳南麓（小淵沢・長坂・大泉）を周遊するリゾートバスの運行や地域共通の割引クーポン券の発行などに取り組み、事業規模が1千万円を超えたのを機に平成22年に一般社団法人として法人化しました。

平成25年度からは観光庁の「観光地域ブランド確立支援事業」（全国5カ所）に「1，000mの天空リゾート八ヶ岳～澄みきった自分に還る場所」をブランドコンセプトに、県域を越えた長野県原村・富士見町から北杜市の広域で八ヶ岳南麓の観光を基軸とした地域づくりに取り組んでいます。

観光事業を通じて八ヶ岳南麓の地域づくりとは。

八ヶ岳南麓は30分で標高400～1，400mの移動が可能な標高差1，000mの高原・山岳リゾートです。支援事業の中で①八ヶ岳観光圏ブランドの確立②観光客の滞在・リピートプログラムの創出③魅力ある地域づくりを担う人づくりに取り組み、「**住んでよし、訪れてよしの地域**」として、住民にも来訪客にも魅力のある地域づくりを目指しています。

具体的には、各地で開かれていたイベントを八ヶ岳観光圏内イベント情報として統一的に発信するとともに、「寒いほどお得フェア」や「八ヶ岳新そばまつり」など一部で実施していた八ヶ岳を象徴するイベントを地域全体で共有し規模拡大するなど、広域観光圏の確立に向けて八ヶ岳ツーリズムマネージメントで働きかけを行っています。

地域振興は観光事業者だけでできるものではなく、住民・事業者・団体・行政などが一体となって住んでよい地域を創ることが来訪客にとっても訪れたい場所・また来たい場所につながると思います。そのための「**つなぎ役**」を八ヶ岳ツーリズムマネージメントが努めていきたいと思います。

ACTIVE KUMIAI

中央会●会員組合活動紹介

TOPICS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一般社団法人　山梨県木造住宅協会

今後における中大規模の木造建築について語る！

～日本屈指の専門家を招いての講演会を開催～

ACTIVE KUMIAI

パネルディスカッションでは熱い議論が交わされた

一般社団法人山梨県木造住宅協会（中村伊伯代表理事）は去る10月26日、恩賜林記念館にて開催された「第1回地域材担い手セミナーH25 in山梨」に運営協力団体として参加した。本セミナーでは「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（以下、木材利用促進法）」の施行に伴い増えつつある中大規模の木造建築物に対し、地域の工務店、建設会社、設計者がどのように取り組んでいくべきかについての講演及びパネルディスカッションが行われた。

セミナーは、日本屈指の木構造のスペシャリスト3名を講師に招き、1人1人講演を行った。初めに、東京大学大学院の稲山正弘教授により小規模木造設計から中大規模木造設計への転換手法についての講演が行われた。次に、東京大学の腰原幹雄教授によりRC構造、鉄骨構造における部品化、規格化を転用した中大規模木造建築の設計についての講演が行われた。最後に京都大学の五十田博教授によりRC構造、鉄骨構造、木造の良さを活かした混構造による中大規模木造の設計についての講演が行われた。

その後に行われたパネルディスカッションでは、木材利用促進法により増えつつある中大規模の木造建築物について、この動きを継続的なものとするための方策について、五十田教授がコーディネーター、稲山教授、腰原教授、さらには本協会の中村代表理事がパネリストとなり、それぞれの立場から熱い議論が交わされた。

協会ではセミナーを通じて、中大規模の木造建築物の増加と地産地建（地元の木材を使い、地元の建築士が設計し、地元で材料を加工し、地元の工務店が施工する）がさらに促進されることを切に願っている。

当日は県内の工務店、建築士等約140名の参加があった

TOPICS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山梨県葬祭事業協同組合

話題の「終活」を活用し、付加価値の創造を！

～「終活」に関する講習会を開催～

ACTIVE KUMIAI

山梨県葬祭事業協同組合（保坂孝夫理事長）は去る10月16日、「葬祭業における『終活』活用法」と題した講習会を開催した。これは、社会的ブームともなっている「終活（人生のエンディングを自分らしく迎えるため、生前から考え準備すること）」について、その活用方法を学ぶことにより、満足度の向上等を目指すことを目的としている。講師は、葬儀相談員として活躍している市川愛氏が務めた。

講習会の中で市川氏は、顧客満足度を向上させる1つとして「付加価値の創造」があり、そのツールとして「終活」があるとの説明があった。現在、葬儀社間においては価格競争が起きている。資本力の弱い中小企業にとって、そのため、中小企業は価格ではなく「付加価値を高める」事で勝負すべきである。例えば、顧客にとっては「価格は安いが、普通の葬儀」と「価格が普通であるが、感動的な葬儀」では顧客満足度は同等となる。その付加価値向上のための1つとして、「終活」を活用すべきであるとのことだった。

講師の「葬儀相談員」市川愛氏

最後に、市川氏は「人々の葬儀意識が高まりつつある中で、このチャンスを掴むためには『付加価値の創造』が重要である。終活を支援することにより付加価値を創造し、顧客満足度の向上に努めていけば、新規顧客の獲得、顧客満足度の向上に繋がっていく」と述べていた。

この研修を終えて、保坂理事長は「終活はネガティブなものではなく、ポジティブなもの。自分自身の最期を自分らしく迎える準備である。今回の研修を活かし、顧客に対し積極的に終活支援を行っていきたい」と述べていた。

終活の活用法について学ぶ組合員

TOPICS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山梨県建設業協同組合

組合会館が竣工

～新たな業界団体の要として～

ACTIVE KUMIAI

清め祓いの儀に立ち会う浅野理事長

山梨県建設業協同組合（浅野正一理事長・組合員294名）の組合会館が完成し、10月31日に竣工式が行われた。

新しい組合会館は、これまで組合事務所のあった甲府市丸の内1丁目の舞鶴公園南の山梨県建設業協会の所有地に、本年6月初旬に着工、10月末に完成した。

建物は鉄骨造り2階建て、延べ床面積455㎡で、15台の駐車場も備え、山梨県建築設計監理事業協同組合・山梨県コンクリート製品協同組合をはじめ、建設業関連の7団体も入居する。

竣工式には、組合の役員の他に、県庁県土整備部の技監、入居する関係団体の代表者、工事関係者など約30名が出席し、神棚遷座祭及び竣工報告祭などの神事が行われた。

浅野理事長は「組合の設立から50余年が経過し、共同事業に対する積極的な取り組みにより自前の会館を持つことができるに至った。これも組合員の協力と理解によるものだと、深く感謝している。今後は、建設関連団体の要として、業界の発展と振興に役立っていきたい。」と挨拶の中で述べた。

完成した新会館

山梨県中小企業労務改善団体連合会

第27回 活力ある職場づくり推進運動 山梨県大会開催

挨拶する大宮山会長

山梨県中小企業労務改善団体連合会（大宮山磐会長）は、11月21日（木）クラウンパレス甲府において、第27回活力ある職場づくり推進運動山梨県大会を開催した。

大会では、地域及び業界の労務改善に尽力した功労者18名が、山梨県、山梨県中小企業団体中央会、山梨県中小企業労務改善団体連合会よりそれぞれ表彰された。

また、表彰式典終了後には、「消費増税に負けない企業づくりとは」をテーマとした講演会が開催され、山梨県立大学国際政策学総合政策学科の澁谷彰久教授と日本政策金融公庫甲府支店長の若菜裕司氏がそれぞれの立場での消費増税に向けての対策について講演を行った。

謝辞を読む藤本氏

講演する澁谷教授

講演する若菜支店長

表彰者一覧

●山梨県知事表彰（3名）（以下敬称略）
藤本貴、早川孝雄（以上山梨県トラック事業労務改善協議会）、村松俊之（山梨県自動車整備労務改善協議会）

●山梨県中小企業団体中央会会長表彰（6名）
松橋勝美、原拓、廣川哲也（以上甲州市中小企業労務改善協議会）、新津豊明、深澤和長（以上山梨県トラック事業労務改善協議会）、武島清美（山梨市中小企業労務改善協議会）

●山梨県中小企業労務改善団体連合会会長表彰）（9名）
高村洋、中村武、山口和男、森嶋正人（以上都留市経営者連絡協議会）、岸本清（山梨市中小企業労務改善協議会）、金井巧（山梨県トラック事業労務改善協議会）、鈴木政敏、上野義正、河村一郎（以上山梨県自動車整備労務改善協議会）

山梨県中小企業団体青年中央会

組合青年部県大会を開催

挨拶を述べる鈴木会長

11月12日（火）山梨県中小企業団体青年中央会（鈴木浩文会長）は、平成25年度組合青年部県大会を甲府市の古名屋ホテルで開催した。

県大会は講演会と交流会の2部で構成されており、青年部間の交流および青年中央会の組織強化の目的で毎年実施されている。今回は県内組合青年部等の若手経営者や後継者約40名が出席した。

講演会では、㈱コンパス代表取締役の鈴木進介氏が、最近よく耳にする“断捨離”をキーワードに、実践的で仕事や生活に役立つ手法について、「“断捨離”思考で考える業務改善のやり方・考え方」をテーマに講演した。鈴木氏は講演の中で、「断捨離思考で仕事のスピードを上げるコツは、捨て上手になること、情報の整理は引き出しを先に作ること、業務を細分化して24時間以内に着手することが重要となる。また、時間の効率的な活用について、浪費と空費を減らして、いかに投資の時間を確保するかが鍵になる。そのためには、現状の把握、やらないことを決める、他人に任せる項目を決める、自分の時間を効率化していくことが求められる。」と説明した。

その後の交流会では鈴木氏も参加し、山梨県産業政策課の石原課長、㈱商工組合中央金庫甲府支店の小俣支店長および中央会の内藤会長を来賓として招き、各テーブルでは情報交換など異業種の交流が図られた。また、サプライズゲストとしてシンガーソングライターのサノケンが登場すると、会場は大いに盛り上がりをみせ、盛会の内に終了した。

講師の鈴木進介氏

山梨県中小企業団体中央会女性部会

レディース中央会全国フォーラムに参加

基調講演を行うベニシア・スタンリー・スミス氏

10月23日、平成25年度「レディース中央会全国フォーラム in 鳥取」が、「地域資源から学ぼう気づきの経営」をメインテーマに、鳥取県西伯郡伯耆町「大山ロイヤルホテル」で開催された。本県から6名、全国から約350名の女性経営者等が参加した。

基調講演では、「いつまでも若々しく、健康であるために」をテーマにハーブ研究家で英会話学校経営者であるベニシア・スタンリー・スミス氏が、京都・大原での生活について、ハーブの説明も交えながら紹介された。その中で、特に散歩の重要性について触れ、若返りのためには歩くことが大事であり、脳細胞の活性化にも良い。また、睡眠をしっかりとることが必要であることなど、自然と共に生きる健康的なライフスタイルについて語った。

引き続き、鳥取女性部中央会会員の事例発表として「女性起業家の心意気、自然の恵みを活かした商品開発」をテーマに、副会長田村閑美氏が二十世紀梨を用いた「梨しゃぼん」（洗顔石けん）の開発に係わる苦労話、今後の展開について発表があった。続いて、「海外から教えられた伝統産業、日本の力」をテーマに、鳥取県女性部相談役房安寿美枝氏が因州和紙の製造方法や商品開発についての発表。その後、参加者全員で因州和紙を使った箸袋を作成する折り紙体験を行った。

交流パーティーでは、全国からの参加者が地域を越えてテーブルを囲み、情報交換や親睦を深めた他、ノリのいい鬼太郎音頭を参加者全員で踊るなど大いに盛り上がった。最後に鳥取県出身である岡野貞一氏が作曲した「ふるさと」を参加者全員で合唱し幕を閉じた。

因州和紙で箸袋を作成

鳥取県のキャラクター「トリピー」と記念撮影

経営者に聞きました！

このコーナーは、学生が県内企業の経営者を訪問し、企業の経営実態や求めている人材等について直接聞き取ることにより、学生と企業の相互理解を促進し、雇用のミスマッチ等を解消することを目的としております。

学生企業レポート 第14回

▶第14回目となる今回は、**山梨大学 工学部 循環システム工学科 3年 小松実央さん**が、**株式会社少國民社 代表取締役 依田訓彦氏**を取材しました。

学生

山梨大学
工学部 循環システム工学科
3年　小松 実央 さん

「なぜ働くのか?」を大切に

経営者

株式会社 少國民社
代表取締役
依田 訓彦 氏

▶学生

まず、御社の歴史と事業内容について教えていただけますか。

▶経営者

当社は、江戸時代末期文政7年（1824年）に、依田古久屋紋右衛門正之が鰍沢にて印刷業を始めたのが創業となります。当時の屋号は「古久紋」。以来11代にわたり事業を継承し今年で創業189年となります。祖父7代目当主依田初男は、明治36年（1903年）の中央線開通を契機に大正3年（1914年）事業所を甲府市に移し当時では珍しい少年少女を対象とした新聞発行を行っており、主力事業ということもあり社名を「少國民新聞社」と改めました。また昭和8年（1933年）には東京の日本橋通り3丁目に不二出版社を設立、当時江戸川乱歩氏、日夏耿之助氏らと親交がありました。しかし初男は47歳の若さでこの世を去りその後は妻素江が8代目当主として会社を支えました。昭和20年（1945年）の甲府大空襲にて社屋設備一切を消失。その後、翌年には有限会社少國民社として復興し9代依田欣也、10代依田迪比古の刻苦勉励の働きにより現在に至っています。

事業内容は、お客様が伝えたい考えや想いを世の中に出していくために、紙媒体や電子媒体を利用して様々なコンテンツを作ることが事業の中心となっています。具体的には高品質なカラー印刷を始め、ホームページ制作等を中心とする印刷事業・IT事業です。

▶学生

次に、経営の理念についてお聞かせください。

▶経営者

経営理念は「私たちは、様々な情報を加工し、また様々な媒体へアウトプットすることを通して、『伝えること』を生業の根幹に置き、お客様の益々の発展繁栄のための要望に応え、地域社会に貢献し更には全社員とその家族の物心両面の幸福を追求します。」です。

具体的な経営方針は「ゴールデンサークル」という考え方を大切にしております。私たちは「自分たちはなぜ事業を行い、どのように行うのが理想であり、それを叶えるためにこの仕事をしているのだ」（Why?→How?→What?）ということを常に意識して仕事をすることを心がけています。それを実践するための行動基準に二つの尺度を持っています。一つ目は、「あにきはきれい」という言葉です。これは「挨拶、にこにこ、きびきび、はきはき、規則を守る、礼儀正しく、生き生きと」の頭文字ですが、このポイントに常に気を配り自分を正していくことが大切です。もう一点は「守・破・離」という考え方があります。これは「素直に聞く耳を持ち、しっかりと基本を取得してから、自分の流儀を出してゆく。しかし基本は常に忘れない。」という精神を示しています。

▶学生

それでは、御社の求める人材像はどのようなものですか。

▶経営者

印刷業界に興味があるかどうかも大事ですが、やはり最重視するのは「生活態度の基本がしっかりしているかどうか」です。世の中には色々な性格の人がいますが、それぞれが自身の中で先ほど述べた様な行動指針を身につけていけるかどうか、大事なポイントだと思っています。また印刷業は「受注産業」ですが、これからの時代はお客様の御要望を実現するためのプロセスとツールをどのように提案していくのか大切です。積極的に仕事に取り組みそして毎日ワクワクすることを自ら作り出せることも必要ではないでしょうか。

取材を終えて…

お客様の注文に忠実に従って仕事をすることは大切なことだと思います。ただ、それだけでは「自分のしたい仕事」をすることは出来ません。私たちが誰のために働くのかというとお客様のためですが、原点に返ると結局は「自分自身のため」になるのではないかと思います。自分の理想とする仕事に満足してくれるお客様がいて初めて、働き手とお客様の両方が幸せになります。そこで「仕事に自分の色を出す」ために大切なことが、「基礎を忠実に守り、更によくするための努力を惜しまないこと」になるのだろうなと感じました。

学生企業レポート 第15回

▶第15回目となる今回は、**山梨学院大学 健康栄養学部 管理栄養学科 1年 山内美紗さん**が、**丸十山梨製パン株式会社 常務取締役 梅本悦子氏** を取材しました。

経営者

丸十山梨製パン 株式会社
常務取締役
梅本 悦子 氏

本当のおいしさ・笑顔のために

学生

山梨学院大学
健康栄養学部 管理栄養学科
1年　山内 美紗 さん

▶学生

御社の経営理念とこだわりを教えてください。

▶経営者

当社は1921年の十月に創業して以来、県内最古のパン屋として製パン業と小売業を営んでいます。当時としては珍しいパン酵母を使用したパンを創業以来92年間ずっと製パンと小売の形態で営業していることがこだわりです。経営理念は3本柱で「おいしい」「安全」「健康」を掲げています。パンは薬とは違うので、おいしさが求められます。自社で調達した食材を人の手で1つずつ製品にすることで安全で安心できるパンを製造しています。安全でおいしいパンを食べることによってお客様が健康で生活できることを願って営業しています。今は食品偽装などの問題が世間で話題に上っていますが、当社では原料にはこだわりがあります。小豆は北海道産のものを使用し、小豆の煮方は独自のレシピで仕上げています。お客様には本当においしいものを味わっていただきたいと思っているので製品と価格のバランスについては悩みながら最良だと思える商品を提供しています。

▶学生

御社の経営の将来性と中小企業ならではの工夫点を教えてください。

▶経営者

現在、景気は落ち込んでいるものの、主食であるパンについて売れ行きはまずまずです。昔を振り返ると、甲府にも活気があり町は人であふれていていましたが、現在は町にほとんど人がいないことが寂しいです。当時から毎朝パンを買いに来てくださっていたお客様も、今となっては杖を突きながら来店してくださります。そういったお客様がなくなったお話を耳にすることもあり、人がどんどん減っていくことが残念でなりません。また、大手企業さんのパンの品質がどんどん向上している今、私たちリテールベーカリー（町のパン屋）ができることは地域の方との信頼の構築だと思います。食パン1斤ですと、当店では230円で販売していますが、大手企業さんでは100円を下回る商品までもが販売されています。価格面では大手企業さんは強いのですが、当店の地域に根ざした歴史、商品へのこだわり、また顔が見える営業は大きな強みです。リテールベーカリーの強みを生かして、本当においしい食材で作った製品を多くの人に食べてもらうことが、今に引き続く当店の願いです。

▶学生

御社での働きがいと女性の社会進出についての考えをお聞かせください。

▶経営者

当社では女性従業員の割合が非常に高いです。パン作りは朝早く、重労働、機械を使用するために危険がつきまといます。いわゆる3Kであり大変な職業です。しかし、志して働きに来る若い女性が沢山います。大変な仕事であるが為に志は大変重要であり、好きでなくては続かない職業だと思っています。大変な仕事でもお客さまに「おいしい」と笑顔で言ってもらえることに喜びを感じて働いています。お客様と身近に接触しながら働くことで、働きがいを感じています。また女性が社会で働くことにより、女性目線の考えが反映されることは新たな製品開発や営業にとって有益だと考えています。

取材を終えて…

インタビューを通して常務さんのおいしさに対する強いこだわりを知り、リテールベーカリーの強みが感じられました。お客さんにパンを食べて笑顔になってもらうことが一番の喜びだと何度もおっしゃられていたことが大変印象的です。食を学ぶ私にとって刺激的なお話が聞けました。

企業と学生の交流

職業意識向上バスツアー

山梨信用金庫での交流会

10月11日、山梨県立大学の学生7名が参加し、「職業意識向上バスツアー」を行った。

このバスツアーは、地域中小企業人材確保・定着支援事業の一環として、大学生の職業意識向上や就職活動における視野を広げる事を目的として開催された。

第1部の若手従業員との交流会は、山梨信用金庫大月支店にて行われ、入庫3年目の従業員15名が学生からの質問に答えた。学生からは就職活動に対する心構え、就職活動中の苦労話、学生時代の過ごし方、就職してからの気持ちの変化など、様々な質問が寄せられた。初めは緊張していた学生も、従業員と年代が近いこともあり、徐々に打ち解けた様子で、ときおり笑い声も起こる和やかな雰囲気の中での終了となった。

第2部の職場見学会では、転造技術（加熱せず、切り屑も出さず、金属を加工する技術）で世界トップクラスの技術力を誇る㈱ニッセーを訪問した。実際に金属を加工してネジを作る過程を見学し、初めて触れる技術に学生は担当者の説明に興味深く聞き入っていた。

また、今回の見学会に併せて、来年発行予定の冊子「きらり企業セレクション」の取材も行い、社長と若手従業員に話を伺った。中小企業ならではのアットホームな雰囲気の中、社長には会社の将来ビジョンや社員とのコミュニケーションの取り方、若手従業員には就職活動や担当している仕事などを聞いた。

バスツアーを終え、参加した学生からは「今回訪問した企業や業界に対してのイメージが変わり、就職先として考えるようになった」「県内企業に就職をする意識が高まった」などの感想があり、就職に対する意識の向上の一助となった。

㈱ニッセーにて熱心に説明を聞く学生

山梨中央銀行　www.yamanashibank.co.jp

あなたのビジネスを大きくアシストします。

山梨中銀
ビッグアシスト
Neo

その1 最大2億8千万円!
その2 無担保でのお取扱い!
その3 第三者保証人不要!

※審査の結果によっては、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

くわしくは山梨中央銀行の窓口またはフリーダイヤルへどうぞ
0120-201862（ふれあいハローに）照合コード 9
受付時間　月曜日～金曜日　9:00～17:00（ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。）

人生100年時代

「生涯現役社会に向けた雇用制度」の導入を検討してみませんか？

高年齢者の知識・経験を企業の活性化に。

少子高齢化の進展により日本の労働力人口が大幅に減少することが懸念される中、企業にとって知識や技能を持った“人財”の確保が一層必要となります。定年の廃止、定年後の継続雇用等、健康で意欲と能力がある限り働き続けることができる雇用制度を導入することにより、社員のモチベーションを高く保つことができ、社内の活性化につながることが期待されます。また、ベテラン社員が永年の勤務で培った知識、経験、技能、人脈等を伝承することにより、将来の会社の担い手となる若手社員を育てることができ、今後の企業環境の変化に対応することができると考えます。生涯現役で活躍し続けられる社会環境を企業が整えることが重要と考えます。

KofuSeika CO.,LTD.

甲府青果株式会社

代 表 者：代表取締役社長 遠藤　勝巳
所 在 地：甲府市
従業員数：180 人
業　　種：青果物卸売業（販売・加工）

代表取締役社長　**遠藤 勝巳**

甲府青果株式会社　社屋

【モデル事業の取組内容・目標】

- 希望者全員６５歳雇用後、７０歳以降まで働ける雇用制度導入のための検討
- 体力低下に対応すべく、職種に合わせた多様な就労形態の社内制度化の検討
- 問題点･課題に対する解決策を検討中

食品放射能測定システム

「地域別生涯現役社会実現モデル事業」（厚生労働省委託事業）に取り組んでいます。

公益財団法人 **産業雇用安定センター**

http://www.sangyokoyo.or.jp/
TEL 03-5627-3600

2014（第17回）
中小企業団体新春交流会のご案内

開催日時	平成26年1月10日(金) 16：00～18：00
開催場所	セレス甲府(旧アピオ甲府) 中巨摩郡昭和町西条3600
内　容	①式　典（16：00～16：40） ②交流会（16：40～18：00）
参加費	1人　¥5,000-
お申し込み締め切り	12月13日(金) までにお願いいたします。

多数のご参加をお待ちしております。

第19回
中小企業組合まつり開催

日時　平成26年3月23日(日)
午前9時～

場所　アイメッセ山梨
（甲府市大津町）

新採用職員紹介

11月から新たに正規職員1名と嘱託職員1名を採用しました。
よろしくお願いします。

●企画総務部　総務課
主事
神山佳之氏

●ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業
嘱託職員
村松和香子氏

県立防災安全センターのご案内

「県立防災安全センター」では、専門の防災指導員の指導のもと、災害や防災に関する知識を疑似体験しながら学ぶことができます。地震や火災による被害を最小限にくい止めるため、防災知識の習得や訓練の場として設けられた施設です。

館内のご案内

①地震体験コーナー：震度1から震度7までの揺れを体感。
②消火体験コーナー：赤外線の消火器を使ってモニターに映る炎を“消火”。
③119番通報・災害用伝言ダイヤル171体験コーナー
：119番通報の模擬体験、災害用伝言ダイヤルの利用体験。
④その他さまざまなコーナーで学ぶことができます。

防災安全センターは皆様のご来館をお待ちしております。
なお、団体利用の場合はあらかじめ予約をお願いいたします。

●所 在 地：中央市今福991
●電　　話：055-273-1048
●利用時間：午前9時から午後5時まで
●休 館 日：第2・第4日曜日、祝日、12月29日～1月3日

編集後記

食品の偽装表示問題。企業のコンプライアンスは？なぜ、一時にこれだけ多くが明るみになるのか？マスコミは話題性の高い情報ほど報道をしますが、多くの情報の中から、必要な情報を自分自身で選択するほかない時代にあっては、一層見る目、五感を養っていかなければならないと感じています。

●ご意見・ご要望は、中小企業タイムズ編集班まで
TEL 055-237-3215　FAX 055-237-3216
E-mail webmaster@chuokai-yamanashi.or.jp

面接会参加企業募集中

山梨県シルバー人材センター連合会では山梨労働局より委託をうけてシニアワークプログラム地域事業を実施し、55歳以上の高齢者の就職・就業支援をしています。

合同面接会

●平成25年12月13日(金)
●昭和町「アピオ甲府」13:30～

▶タクシー会社
▶造園関係
▶農業関係
▶介護関係

面接会参加企業を募集しています。詳しくは下記までお問合せ下さい。

公益社団法人
山梨県シルバー人材センター連合会
〒400-0035　甲府市飯田3丁目3-28
Tel.055-228-8383

「けんみん信組 ビジネスローン」

事業者向けローン

ご融資期間 最長5年!!
ご融資金額 50万円～最高500万円!!
スピード審査

ご利用いただける方

●原則として業歴2年以上の法人(協同組合は不可)および確定申告を行っている個人事業主
●農林水産業の方も申込できます。
(但し、業種によっては受付出来ない場合があります)
●アイフル株式会社の保証が得られる方
※詳しくは、窓口または営業係までお気軽にご相談ください。

けんみんのグッドパートナー
山梨県民信用組合
甲府市相生1丁目2-34　TEL055-228-5151
http://www.yamanashikenmin.shinkumi.jp

山梨県中小企業団体中央会が推進する
安い掛金で 大きな安心

自動車共済

24時間事故受付で、緊急連絡にそなえて万全の事故処理体制をとっています。万一の事故のときは、顧問弁護士や専門職員が示談交渉にあたり、解決するまで協力します。

関東自動車共済協同組合
山梨県支部
〒400-0035　甲府市飯田 4-4-2　自動車共済ビル
TEL 055-237-8331 ㈹